

I 検討課題と協議経過

1 検討すべき課題と検討の視点について

千葉県教育委員会では、令和4年3月に、今後10年間の県立高校改革に関する基本的な考え方を示す「県立高校改革推進プラン」を策定し、生徒の多様なニーズへの対応や、キャリア教育・職業教育の充実など、県立高校の現状と課題を踏まえ、「全ての高校の魅力化と学びの改革」、「キャリア教育と職業教育の充実」「学校間連携」「戦略的な広報」の4点を重点事項として、県立高校の魅力化・特色化を推進することとしました。

本プランでは、県立高校の現状と課題の1つとして、人口の減少を掲げ、郡部と都市部の差について、次のように述べています。

中学校卒業生数は、平成元年以降、全県的に急激に減少してきましたが、令和4年3月から10年後の令和14年3月には、さらに約6,200人減少することが見込まれています。

特に、第1学区から第3学区までの、いわゆる都市部においても、10年後には約3,000人が減少する見込みとなっています。

また、第4学区から第9学区までの、いわゆる郡部においては、少子化に伴う小規模化が進行するとともに、これまでの再編により、高校が離れて点在している状況にあり、交通の利便性や学校選択の幅において、都市部との差が拡大しています。

千葉県は地域特性が非常に多様であり、まさに「日本の縮図」といえる状況にあります。人口減少が進む県内各地域において、人口減少が教育の地盤沈下を引き起こさないよう、少子化や地域の状況、私立学校も含めた高校の設置状況等を踏まえた高校の適正配置の在り方について検討する必要があります。

このような状況を踏まえ、それぞれの地域の特性を踏まえた県立高校の在り方について検討する必要があることから、中学校卒業生数が減少する中でも、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるように、県立高校の学校規模の適正化を図り、併せて学校及び学科の適正な配置を行うこととし、県立高校の配置について、具体計画の方向を次のように決めました。

○多くの友人・教職員との触れ合いや切磋琢磨の機会を確保し、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるよう、学校の規模・配置の適正化を推進します。

- 都市部では、1校当たりの適正規模を原則1学年6～8学級とし、適正規模に満たない学校や同じタイプの学校が近接している場合については、統合による多様な学びへの変換や新たなタイプの学校への再編を検討します。
- 郡部では、1校当たりの適正規模を原則1学年4～8学級とし、適正規模に満たない学校については統合の対象として検討しますが、学校・地域の状況等に配慮し、統合しない場合もあります。
- 中学校卒業生数が減少する中、活力ある教育活動を維持するため、適正規模・適正配置の観点から、10組程度の統合を見込んでいますが、学校の適正な配置に当たっては、地域における学校の在り方などについて、生徒や保護者のニーズを踏まえるとともに、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいても意見を伺いながら、検討を進めます。
- 多様なタイプの学校の中から、生徒が興味・関心や進路希望に応じて、自分に合った学校が選べるよう、適正配置に配慮します。
- 定時制高校については、学びの機会を保障するとともに、生徒・保護者及び地域のニーズ、地域バランス等を考慮し、配置の在り方について検討します。
- 通信制高校については、県内唯一の通信制高校である千葉大宮高校を中心に、県内全域の生徒が学ぶことができる体制づくりを検討します。

これらの具体計画の方向に基づいた学校の適正な配置を検討するに当たり、地域関係者の意見を聴くために学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会を、今後は郡部だけでなく都市部においても同様に中学校卒業生数の減少が見込まれることから、県内全域を対象に設置することとしました。

地域協議会では、学校の適正配置はもとより、地域の特性や実状を踏まえ、「将来の子どもたちにとって、この地域の県立高校がどうあるべきか」、「どのような学びがこの地域の子どもたちに必要か」など幅広い視点からさまざまな意見を聴取することを目的としました。

また、「千葉県教育振興基本計画」や「県立高校改革推進プラン」を踏まえ、「地域における県立高校の在り方」、「地域との連携」をキーワードとして、それぞれ具体的に次の点を検討の視点として、議論を深めることとしました。

- ・「地域における県立高校の在り方」では、地域の産業を支える人材を輩出し、担い手育成の拠点となる学校、多様な生徒のニーズに応え、様々な機能を備え地域に貢献する学校について

・「地域との連携」では、企業等の地域の教育力の一層の活用、地域活性化への貢献、市町村や地域との連携・協働等について

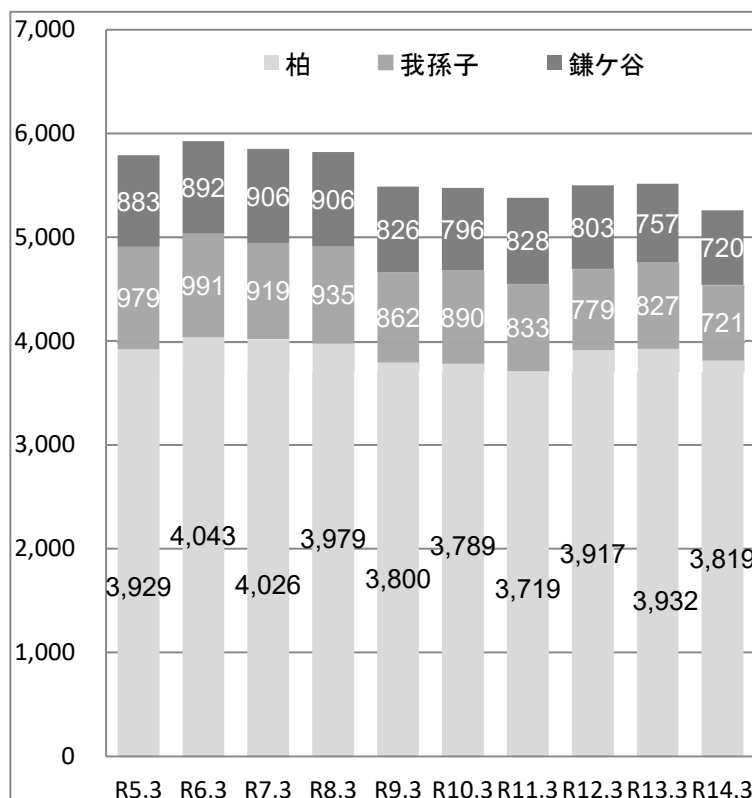
以上の検討の視点のもと、令和4年度柏・我孫子・鎌ヶ谷地区において地域協議会を設置し、3回の協議を重ねたうえ、本報告として取りまとめました。

なお、柏・我孫子・鎌ヶ谷地区における高校の状況ですが、県立高校は全日制12校（うち1校は定時制を併置）、市立高校は全日制1校、私立高校は全日制7校が所在^{※1}しています。学校規模^{※2}は、県立高校全日制12校では、令和5年度入学生の学級数合計が86学級、平均学級数が7.2学級であり、定時制高校1校の学級数合計は同年度入学生で2学級でした。次に入試の状況ですが、全日制4校において合計310名分の定員未充足が生じておりますが、一方で志願倍率が1.5倍を超える学校も複数あり、二極化が進んでいると言えます。また、柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の中学生の状況^{※3}は、令和4年3月卒業生数は5,339名でしたが、10年後は推計で5,260名となり、令和4年3月の卒業生数と比較して79名減少します。この地区では今後10年間で大幅な減少は見込まれませんが、二極化の現状と隣接学区や県全体の県立高校の学級規模や中学卒業生数の減少傾向から、10年後の学校規模は県が示す適正規模の維持が危惧される状況にあります。

※1 柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の県立高校の所在については、資料編「会議資料9ページ」を参照。

※2 柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の県立高校の学校規模については、資料編「会議資料20～21ページ」を参照。

※3 柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の中学校卒業生数の状況については、資料編「会議資料22～26ページ」を参照。



柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の国公立中学校卒業生数の推移と見通し

2 協議の経過について

第1回

令和5年1月6日（金）開催（於：さわやかちば県民プラザ 会議室1）

○ 座長選出

【議題】

- 1 地域協議会設置の趣旨
- 2 「県立高校改革推進プラン」及び「第1次実施プログラム」について
- 3 柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の県立高校の現状と課題

第2回

令和5年2月10日（金）開催（於：東葛テクノプラザ 第1研修室）

【議題】

- 1 柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の県立高校の在り方について
 - ・普通科及び普通系専門学科・コース（理数科、教員基礎コース、保育基礎コース、医歯薬コース、福祉コース等）
 - ・職業系専門学科・コース（情報科等）
 - ・総合学科
 - ・社会のニーズに対応した教育（中高一貫教育校、定時制高校等）

第3回

令和5年3月17日（金）開催（於：ザ・クレストホテル柏 カトレヤルーム）

【議題】

- 1 柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の県立高校の適正規模・適正配置について
 - ・望ましい学校規模について
 - ・柏・我孫子・鎌ヶ谷地区における魅力ある高校について

Ⅱ 協議結果

1 地域協議会開催の趣旨

地域協議会開催の趣旨を説明しました。

※ 詳細は、資料編「会議資料3ページ（柏・我孫子・鎌ヶ谷地区地域協議会設置要綱）」を参照。



2 「県立高校改革推進プラン」及び「第1次実施プログラム」について

次の点について説明しました。

- ・これまでの高校再編について
- ・「県立高校改革推進プラン」の概要
- ・「第1次実施プログラム」の概要

※ 詳細は、資料編「会議資料4～7ページ」を参照。

3 柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の県立高校の現状と課題

柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の県立高校の現状と課題として次のような内容を説明しました。

(1) 柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の県立高校12校の現状

- ・概要、沿革、募集学級数の推移、入試の状況、進路の状況について確認。
- ・地区内のコースの設置については、平成26年度東葛飾高校に医歯薬コース、平成30年度我孫子高校に教員基礎コース、我孫子東高校に福祉コースを設置した。令和6年度より鎌ヶ谷西高校では、保育基礎コースを設置予定。
- ・東葛飾高校では、平成28年度に併設型中高一貫教育校を設置し、令和4年度現在、柏市内から69名、我孫子市内から26名が通学。
- ・柏の葉高校は、平成19年度に柏西高校と柏北高校を統合し、柏の葉高校の校名で現在に至る。統合時には情報理数科を設置。
- ・我孫子東高校は、平成23年度に湖北高校と布佐高校を統合し、我孫子東高校の校名で現在に至る。令和4年度入学者選抜では、240名定員のところ207名と定員未充足が課題。
- ・沼南高校は、令和4年度入学者選抜において、200名定員のところ73名、沼南高柳高校は、240名定員のところ201名と、定員未充足が課題。
- ・この地区には東葛飾高校に定時制の課程及び併設型県立中学校が設置されている。定時制課程には、令和4年度現在、柏市内から67名、我孫子市内から20名が通学。

※ 詳細は、資料編「会議資料 8～26 ページ」を参照。

(2) 募集学級数の推移

- ・プランでは、都市部における適正規模を 1 学年 6～8 学級としている。平成初期のころは、1 学年 10 クラス規模の学校が多くあったが、全県的な生徒数の減少を受け、募集学級数を減じるとともに、再編統合を行った。また、平成 22 年には、一時的な生徒増への対応として、一部の学校で 1 学年 9 学級とした時期があり、この地区では柏南高校、柏陵高校、柏中央高校が該当したが、現在では柏南高校のみ 9 学級募集となっている。
- ・一方で、都市部における適正規模の下限である 6 学級を下回る学校がある。令和 5 年度募集では鎌ヶ谷西高校が 5 学級募集、沼南高校が 4 学級募集となっている。

※ 詳細は、資料編「会議資料 8～26 ページ」を参照。

(3) 柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の中学校卒業者の現状と今後の見通し

- ・平成 20 年 3 月から平成 30 年 3 月まで、この地区の中学校卒業生数は増加し、以降減少傾向を示している。この地区から第 3 学区内の県立高校全日制へ進学する割合は 40%前後を推移している。
- ・柏市では令和 4 年 3 月に 3396 名の中学生が卒業したが、公立高校全日制に進んだのはそのうち 1951 名である。県外への進学が 14.6%となっている。
- ・その 1951 名の進学先の内訳は、およそ 8 割の 1554 名が第 3 学区内の全日制公立高校に進学している。
- ・我孫子市では、中学校卒業生 757 名中、県内公立高校に進学したのは 563 名で、そのうち、およそ 8 割の 441 名が第 3 学区内の全日制公立高校に進学している。県外への進学が 19.2%となっている。
- ・鎌ヶ谷市では、中学校卒業生 781 名中、県内公立高校に進学したのは 556 名で、そのうち第 3 学区内の全日制公立高校に進学したのは 25.4%の 141 名である。東武野田線や北総線へのアクセスが良い鎌ヶ谷市からは、学区外の船橋・松戸・市川方面に進学する生徒が多い状況である。県外への進学が 5.9%となっている。
- ・地区全体の傾向として、公立高校進学者の 70%程度が第 3 学区内の公立高校を選んでいる一方で、公立高校進学者の 25%以上が第 2 学区の公立高校を選んでいる。また、地区内の中学校卒業生数の 21.4%、5 分の 1 程度が私立高校へ進学している。県外への進学が 14.0%となっている。
- ・生徒の流出入状況は、県立高校入学者選抜では、専門学科及び総合学科については全県一区だが、普通科は学区制となっている。ただし、隣接学区の受検が認められており、第 3 学区は隣接する第 2・第 4 学区との間で、学区の

枠を越えての受検が認められている。この学区へは、第2・第4学区からの流入が多い状況となっている。

- ・地区の中学校卒業生数の推移と見通しについては、今年度の中学校3年生の在籍数は、三市合わせて5791人となっているが、10年後には5260人と、およそ10%程度の減少が見込まれている。

※ 詳細は、資料編「会議資料23～26ページ」を参照。

4 柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の県立高校の在り方について

協議会委員からは次のような意見が出されました。

○協議会委員の意見

- ・福祉コースでの資格取得、教員基礎コースの生徒と小・中学生との交流、地元の小中高合同コンサートやチャリティーバザーの開催、高校生の小学校における学習アドバイザーなど、とても良い取組である。
- ・街づくりと高校の在り方については、地域の特色が高校に出ており、街が発展していき、そのイメージが子どもの進路選択にとっては、影響が大きいのではないか。
- ・将来的には、鎌ヶ谷西高校のすぐ脇に、北千葉道路が通ることになっており、将来の都市計画を一つ指針として、高校や進路を選択するところも意味があるのではないか。
- ・街の特徴を生かし、観光や農業、ビジネスなどの地域資源を生かしたコースはどうか。
- ・子どもたちは街の宝なので、みんなで見ることで、子どもたちの力になるのではないか。



5 柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の県立高校の適正規模・適正配置について

○協議会委員の意見

- ・学びの保障のため、多くの地域に学校を残すとともに、35人学級なども検討してほしい。
- ・生徒数の減少により、清掃や委員会活動などの生徒一人一人の活動への負担が増加する。
- ・成人年齢引き下げにより高校在学中に成人になることも踏まえた学校規模の検討が必要。

- ・クラス数については、全県を考えた場合、都市部では6～8学級、郡部では4～8学級で問題ないのではないか。その中で、学びのセーフティーネットを担保してほしい。
- ・多様なニーズに対応したきめ細かな教育の展開や、学年を越えた学びなどには、ある程度の教員がいないと展開できないと思うので、一定規模は必要であると思う。



- ・統合などの機会にトイレの洋式化などをセットで行うことにより、スピード感を持って施設設備の充実と魅力化の発信を図ることはできないか。
- ・規模の大きな学校は、交通の便が良いところにある場合が多いため、様々な地域から生徒が集まりやすく、幅広く交友関係を

を築き、切磋琢磨できる環境が整いやすい。

- ・統合を進める上で、高校数が限られている自治体では中高連携に支障が生じてしまう。

Ⅲ 今後の検討に向けて

柏・我孫子・鎌ヶ谷地区には、県立高校12校、市立高校1校が所在し、その学科構成は、普通、理数、情報があり、他学区に比べ普通科の設置率が高くなっています。一方、中学生の状況は、卒業生数は令和4年度が5,339人であり、10年で79人減少します。他学区ほど減少は進んでいない中、充足率が低い学校もあり、地域内で二極化が進んでいる状況です。また、不登校、多国籍の生徒など多様なニーズへの対応が求められています。

このような特色を支え、更に強い地域を作る高校について、協議会委員は今後の高校再編を地元の切実な問題としてとらえ、お互いの立場を越え、熱心に議論していただきました。その中で出された意見を集約すると次のとおりです。

- 教員基礎コースや福祉コース等による地域連携の推進
- 中学生に進路意識の明確化を促すことを目的とした普通科コースの増設
- 街づくりと高校の在り方、進路選択への影響
- 柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の地域資源を生かした学びを持つ高校
- 生徒数の減少による学校への影響
- 学びのセーフティネットの担保
- 多様なニーズに対応したきめ細かな教育の展開と一定規模の学校の必要性
- 施設設備の充実と魅力化の発信への早期の対応

協議会委員の意見を踏まえ、今後の柏・我孫子・鎌ヶ谷地区における高校の在り方については、以下の要素に留意し、更に検討を進める必要があると考えます。

- ◎柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の特色を生かした学科やコースを設置し、地域資源を生かした教育を展開する高校
- ◎小・中学校、大学、関係機関、住民の方々など地域の教育力を学校教育に取り込み、多様なニーズに対応した、地域とともに歩む高校
- ◎生徒減少期にはあるが、生徒がお互いに切磋琢磨し、学校の活力を失わないために適正な学校規模が維持されている高校

最後に協議会員の皆様には、それぞれの立場から多岐にわたる貴重な意見を頂きましたことに感謝申し上げます。皆様の意見をもとに柏・我孫子・鎌ヶ谷地区の子どもにとって、より活力のある魅力ある学校づくりを今後も進めてまいります。